

平成28年度第11回移動市長室会議録

(平成29年3月23日)

1 日 時：平成29年3月23日（木曜日）13時50分～15時25分

2 場 所：市民図書館集会室

3 出席者：

『特定非営利活動法人 ちくしの子ども劇場』

萩尾代表理事、黒石事務局長、黒木事務局次長、常任理事（13人）

『筑紫野市』

藤田市長、檜木健康福祉部長、宗貞企画政策部長、嘉村子育て支援課長、
杉村秘書広報課課長補佐、森田秘書広報課係長、末吉秘書広報課主査

4 内 容：懇談

○（事務局） ただいまから、平成28年度第11回、通算67回目の移動市長室を始めさせていただきます。

本日の懇談は、お手元の次第のとおり進めさせていただきます。なお、本日の懇談内容は、会議録を作成し公表させていただきます。撮影しました写真や動画は、市のホームページ、広報紙に掲載させていただきますので、御了承ください。

それでは、初めに、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。御紹介いただきました筑紫野市長の藤田陽三でございます。よろしくお願いいたします。

今日は、ちくしの子ども劇場の皆さん方とこのような移動市長室を開催させていただくことになりまして、心から御礼を申し上げます。ありがとうございます。

萩尾代表理事をはじめ、子ども劇場に携わられた皆さん方におかれては、子どもたちが地域の中でいきいきと過ごす「子ども時代」を過ごすために、環境づくりに御尽力、あるいは御協力を賜っていることに心から厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さきほど宗貞部長が申しましたとおり、もう67回目になる移動市長室でございます、このような移動市長室を、地域に出たり、あるいは、団体さんと会ったりして、いろいろな御意見を賜りながら、生の声をそれぞれの立場で聞かせていただくことが市政の活性化、あるいは、それを市の行政の事業の中に取り入れていくことが新鮮さを生む、そういうふうな市政運営ができる源でございます。

そういう意味からでは、子ども劇場の皆さん方の子どもに対する愛情が、あるいは、叱咤激励、いろんな劇を通しての教え、学ばせ方、そういうことも今日は参考にさせていただくことができるのだらうと思っております。私は大人ばかりを指導しておりますけど、なかなか大人は言うことを聞きません。今日は皆さん方のいろんなお話を聞かせていただきながら、市の行政にしっかりと生かしていきたいと思っておりますので、限られた時間ではございますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。私の挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○（事務局） 続きまして、ちくしの子ども劇場の代表の萩尾さんからよろしくお願いいたします。

○（萩尾代表理事） こんにちは、NPO法人ちくしの子ども劇場の代表理事をしております萩尾です。よろしくお願いいたします。本日、このような移動市長室という懇談の機会をいただき、本当にありがとうございます。また、藤田市長をはじめ、行政の各課の方々に際しましては、常日ごろからの御支援をいただき、また毎年の補助金を有効に使わせていた

だいております。本当にまことに深く感謝申し上げます。

本日は常任理事一同、少し緊張しておりますが、お茶でも飲みながら。

○（藤田市長） もういただいております。

○（萩尾代表理事） お菓子も少しですけど用意させていただいておりますので、楽しんで、実のある会になればいいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、ここで本日参加している行政側の自己紹介をさせていただきます。本日の司会を務めさせていただきます企画政策部の宗貞です。原田に住んで50年になります。どうぞよろしく願いします。

○（檜木健康福祉部長） 皆さん、こんにちは。子育て支援では大変お世話になっております健康福祉部長の檜木です。どうぞよろしく願いします。

○（子育て支援課） 子育て支援課長の嘉村です。

○（事務局） 移動市長室の事務局をしています秘書広報課広報広聴担当の末吉です。

○（事務局） 秘書広報課の杉村です。

○（事務局） 秘書広報課広報広聴担当係長の森田です。

○（事務局） それでは、続いて、ちくしの子ども劇場の皆様をお願いいたします。何かPR等があったら、それぞれお願いいたします。

○（萩尾代表理事） ちくしの子ども劇場の代表理事をしております萩尾です。子どものことに関することが好きなので、子ども劇場だけでなく、また違う会とか、そういうのもやっています。最近子ども劇場のほうで乳幼児のわらべうたなんかをするようになりました。それでパートナーというのがありまして、その認定パートナーを取りましたので、それを二日市東コミセンのほうでもしていますし、自分は今住んでいるのが杉塚なのですが、そちらの公民館のほうで、ぜひしてみないかということなので、何かそこでも始めたいなと思っているところです。どうぞ、よろしく願いします。

○（黒石事務局長） こんにちは。ちくしの子ども劇場で事務局長をしております黒石千穂です。原田に住んでおまして、宗貞部長が50年とおっしゃいましたけど、私はまだまだ足元にも及ばない23年、筑紫野市の原田に住んでおります。子どもも3人おまして、3人とも生まれたときから筑紫野市で育てておりますので、やっぱりここを故郷として子どもたちが育っていく姿を見られているというのは、本当にいいなというふうに思っています。今日は、どうぞよろしく願いします。

○（黒木事務局次長） こんにちは。子ども劇場で事務局次長をしております黒木佳子です。

住んでいる地域は原田になります。私も、家族3人で子ども劇場の会員なのですが、もう娘も今度大学生になるのですが、もう普段はばらばらの生活をしておりませんが、劇を見るときは年に5回だけ、3人一緒の時間を共有して過ごしております。主人も子ども劇場のお父さんの会に入りまして、ノミネーション、そちらのほうで楽しんでおるところです。今日はよろしくをお願いします。

○(常任理事) 福本和美です。劇場では、高学年部の子ども活動委員長をしております。子ども活動委員長は、子どもたちと青年と大人と一緒に活動をつくり出していくようなことをしています。うちは5人家族なのですが、主人も子ども3人も劇場に入っています。子どもたちにもいろんな学校での悩みがあるときに、劇場の青年たちがすごく力になってくれたのが、すごく感謝をしているので、私もその居場所づくりの一員になれたらいいなと思って活動しているところです。よろしくをお願いします。

○(常任理事) ちくしの子ども劇場で青年ブロック長をしている嵯峨礼望です。子どもキャンプに小4からずっと参加しています。今年も子どもキャンプの成功ができたらいいなと思っているので、よろしくをお願いします。

○(常任理事) 原田ブロックのブロック長をしています山内千代です。よろしくお願いたします。宗貞部長のすぐ近所で、会えてびっくりしています。劇場ではブロック会といって子どもたちと一緒に遊んだりするのがもともと大好きなので、そういう楽しい活動をいろいろさせていただいています。地域のほうでは、福祉委員を2期、4年間やらせていただいています。今は、地域コミュニティの次世代育成部の一員でもあります。よろしくをお願いします。

○(常任理事) 子ども劇場の常任理事で、東・山口ブロックのブロック長の阿部幾重です。地域は石崎に住んでいまして、石崎で19年、足かけにして、ちょいちょい横浜とか千葉とかに主人の転勤で行きながら戻ってきてはまた行きというふうな感じのことをしています。子どもが2人いまして、上が高校1年生で下が小学1年生です。その小学1年生のほうはまだ5歳ぐらいのときに、ケーブルステーションのほうに依頼された筑紫野市のPRで、声を担当させていただきました。私自身は、小中学校で家庭教育学級に携わっていました。今年は、子ども育成会の班長をするつもりでして、1年生の子が2年生になったら学年学級委員を学校のほうでさせてもらうつもりでいます。子ども子育て会議に市民委員として参加させていただきまして、嘉村課長と一緒にしています。ファミリー・サポート・センターのまかせて会員でもあります。子ども劇場と余り関係はないのですが、

グリーンコープのほうで地域委員というのをしています、それで地域の方ともいろんな方とお顔見知りになりながら、筑紫野市と色々な団体が一緒に盛り上がっていただけらなと思っています。今日はよろしくお願いします。

○（常任理事） 常任理事で、筑紫ブロックを担当しています石丸真央です。娘が小3なのですが、子育て真っ最中な感じで、ちょっと習い事とかも忙しくはなってきたのですが、そのときそのときの子育ての悩みとかを、この子ども劇場で共有できて、すごく先輩のお母さんたちもいるので、私にとって居心地のいい場所となっています。住まいは若江区ですけど、市長さんにはよく敬老会とか、夏まつりのときに来ていただいて、いつもありがとうございます。ちょっと話がずれましたけど、今日はよろしくお願いします。

○（常任理事） 常任理事の塩崎恵子です。私も筑紫駅前通に住んで、22年になるのですが、子どもたちも4人、みんな筑紫小学校を卒業して地域に根ざしている色々な活動をしています。私も上の子が2歳のときから子ども劇場に入らせてもらって、もう20年、この世界にどっぷりいるのですが、だから、もう本当に子ども劇場のお母さんたちに子育てのことを教えてもらい、お母さんたちが色々な企画をして元気に地域で活動することをここで教えてもらったところです。今は、一番下の子どもがちょうど小学校を卒業する歳で、小学校で朝読ボランティアを8年ぐらいに入っているのですが、子どもは小学校を卒業するのですが、私は朝読ボランティアのOBでまだしばらく参加させてもらおうかなと思っています。子どもが筑紫野南中学校に入りますので、私もまたそこで役をさせてもらうことになりました。これからも何か地域で色々なことを頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○（常任理事） 常任理事の嵯峨です。先ほど自己紹介した嵯峨礼望の母でございます。劇場のほうでは乳幼児委員長ということでやっております、乳幼児期の親子の方と楽しく活動できるように話しています。

市長は全く覚えていらっしゃらないと思うのですが、市民劇で同じにステージに。

○（藤田市長） あれ、本当ですか。その節はいろいろお世話になりました。

○（常任理事） こちらこそ。ちょうど象が出てくるシーンで。

○（藤田市長） そうですか。

○（常任理事） はい。見るのも、するのも好きですけど、地域のほうでも小学校、中学校のときPTAの役員をさせていただいたりしています。人とつながったり、人と会うのがとっても大好きなので、今後も地域でそういう活動ができればなというふうに思っています。

す。よろしくお願いします。

○（常任理事） 低学年部委員長をさせていただきます川田智子です。住まいはむさしヶ丘に住んでいまして、10年以上、むさしヶ丘のほうでお世話になっています。低学年の子どもたちを中心にした活動を企画したり、子どもたちと一緒に活動していくのですね。毎回年に数回ある劇が子どもたちにとって楽しみになるような活動をしたりとか、小学低学年の子どもたちというのは、やっぱり習い事だったり、ゲームだったりとか、意外と子どもたち同士で自由な発想で、本当に心から解放されて遊べている機会が少ないよねということで、そういったことをちょっと外遊びとか何かもっと楽しみになるような活動を一緒に考えて活動させてもらっています。うちは、息子3人と私が子ども劇場の会員なのですけれども、子どもが結構それぞれ自由な感じで、劇を見に来て集中ができなかったりとか、結構不安材料がいっぱいあったのですが、周りの会員さんとか、子ども劇場のお母さんにはいろいろ相談させてもらって、アドバイスをいただいたり、すごく居心地のいい場所を持たせていただいているなというような印象です。地域のほうでは家庭教育学級のほうで数年ちょっと役員として携わらせていただいて、そこでまた小学校のお母さん同士のつながりをさせていただいたり、中学校のほうでは息子が通っていた中学校がちょうどコミュニティスクールの立ち上がりの年に役員としてかかわらせていただいて、本当に学校と地域と家庭の、この三者の融合というのが大事なんだなということをすごく実感させていただいて、すごく筑紫野市でよかったなと思っています。いつもお世話になっています。お願いいたします。

○（常任理事） 高学年部委員長をしております永江和香子です。高学年部の鑑賞例会を深めるために劇団の方をお招きして座談会とか、ワークショップなどを行うことを委員会としてしております。あと、今はパートナーといって乳幼児のわらべうたのお勉強をしているので、認定パートナーになれるように頑張っています。地域のほうは筑紫駅前通に住んでいます。駅前通りの夏祭りに、毎年出店というかバザーをしていますので、そちらのほうにも随分長く手伝っています。それと、あと筑紫小学校、もう子どもは中学校2年生と3年生、今度高1になるのですけれども、筑紫小学校に出向いてふれあい祭りの昔遊びコーナーをしています。そういうところで地域のほうでもやっています。どうぞよろしくお願いします。

○（常任理事） 常任理事で例会部長をさせていただきます梶山奈実です。むさしヶ丘に住んで、今年で10年になります。劇場さんに入らせていただいたおかげで、うちの息

子、娘が7歳と5歳なのですが、二人とも芸術にすごく興味を持つことができるようになって、人形劇をやりたいって言い出した息子と、ミュージカルをやりたいと言い出してくれた娘と、とてもいい、入ってよかったなど旦那とびっくりすると同時にうれしくて、あとそういった資格だとか、技術だとかすばらしいのですが、近所の皆さんとのかかわりがすごくうれしくて、名前を出しちゃうと、川田さんのところの息子さんとすごく仲よく、あの子が行くのなら僕も行くとか、すごく家族でありがたいなと思っています。それから、絵のお仕事をさせていただいていまして、ちくしの子ども劇場のパンフレットを描かせていただきました。あと、子育て支援センターさん、ファミリー・サポート・センターさんと、あと健康推進課さんのウォーキングのポスターも書かせていただきました。地域に愛されるイラストレーターになりたくて、地域の彩と絵で応援できたらなと思っております。よろしくをお願いします。

- （事務局） ありがとうございます。本当にいいお話をもう既に聞かせていただいていますので、子どもを中心にこんなことあんなこととありますが、今話を聞いていますと、やっぱり自分たちの居場所、自分たちが楽しいというのが大事なんだなと。なおかつコミュニティとか、地域でこれだけ活動している人がそれぞれ集まっているんだという話が本当にありがたいと思います。

今からが活動報告ですけども、いろいろお話いただいた上で活動報告に入らせていただきたいと思います。それでは、萩尾代表のほうからよろしいでしょうか。お願いします。

- （萩尾代表理事） では、始めたいと思います。よろしくをお願いします。

今、前に出ているのが、ちくしの子ども劇場の歴史というか、簡単に年号を出しています。子ども劇場は、1966年福岡にて「すべての子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！」「子どもに未来をひらく知恵と勇気を！」をスローガンに誕生しました。それで、昨年50周年を迎えたところです。

この間、前にあります、1980年に筑紫野子ども劇場が独立発足をしました。その後、2002年に特定非営利活動法人ちくしの子ども劇場として認証されています。同じ年に筑紫野市との共催事業である子どもフェスティバルですね。子どもフェスティバル&子ども市というのを13年間開催していました。市長にもいつも挨拶していただいていた。ありがとうございます。

そして、2010年、2012年には、周年記念事業としてうちの劇場の会員の多くが、また先ほど話にも出ました、市長にも出演いただいた市民劇にもかかわっています。

このように筑紫野市で37年間、NPO法人として16年間活動しています。昨年の2016年には福岡で誕生した子ども劇場が50周年を迎え、子どもたちがなかなか出会うことのない伝統文化である歌舞伎を見せたいとお母さんたちの思いから、1981年に初めて取り組んで以来、前進座というところと力を合わせ、今回50周年の周年事業として九州各県にて創作歌舞伎牛若丸を取り組むことができました。

鑑賞と活動については後で皆さんからまた話してもらおうのですが、今の子どもたちの状況を考えると、取り巻く環境、本当に多様化しているなどと思います。子どもたちが豊かに暮らしている一方、いじめや不登校、引きこもりはやっぱり増えているというところもありますし、SNSですね、そういうのにも依存し、友達、家族など人や地域とのつながりも減っているように思います。子どもたちが自分らしく生きることが困難なこの不寛容な社会状況の中で、次世代を担う子どもたちの育成は社会全体にとっても重要な課題と言えます。

先日、前進座という、先ほどの牛若丸の制作の椀山まきこさんという方がいらっしゃるのですが、その方が子どもたちに歌舞伎を届けた熱い思いを語ってくれました。終わりにこう言われました。「歩みをとめてはなりません。この感動、この充実感が次への原動力となりますように」半世紀もの間歩み続けてきた子ども劇場が地域での果たす役割は本当に大きいと感じています。

私たちはNPO法人子ども劇場として、文化芸術活動、自然体験、異年齢の集団遊びなどを通して、身体も心も豊かに大人も子どもも人間として豊かに育ちあうことを願っています。また、子どもの権利条約を基本に、子どもの自主性を大切にしたい子どもたちが日々、ドキドキワクワクと感じとれる生き生きとした子ども時代を過ごすための環境づくりを目指しています。歩みをとめず、子どもの成長を喜びあえることを原動力に、大人集団としてこれからも活動をつくっていきたいと思っています。

○（黒石事務局長）　続きまして、私たちは、鑑賞活動とそれから自主活動というのを2本の柱で活動しているのですが、その話をさせていただきたいと思います。

今話しましたように、私たち50年前、創立したのですが、その創立当初から優れた生の舞台芸術に出会うための鑑賞活動、それから地域や異年齢の遊びの体験などの自主活動を2本の柱として活動してきました。全国の劇団や芸術団体というのが、子どもにこそ優れた生の舞台芸術を届けたいという思いでつくられた作品というものを私たち自身が企画して、それからこれは単に大人向けとか、子ども向けということではなくて、子どもたち

の成長、発達に沿って最適な作品はどんなものなのかなというのを、みんなで考えて知恵を出し合って、年間に十数本の舞台との出会いの場をつくっています。

私たちが、なぜこの鑑賞活動ということと、それから自然体験などの自主活動というのを2本の柱にしたのかということなのですが、子どもの成長において体験ということは、その持つ意味がすごく大きいと言われていています。ですが、私たちの限りある体で体験できる人生はたった一つで、それから鳥になることとか、魚になることとか、ましてや人の人生を、他人の人生を生きるということですね、そういうことは絶対人生としてはあり得ないことなのです。ですが、この芸術体験の中では他人の体験、喜び、怒り、それから悲しみ、楽しみを体験するというふうに言っているのですが、体験することができるというふうに言われています。

このこと自体が、体験していることと、それから鑑賞によって感じたことということが結びついたときに、より豊かな創造性を生んで、子どもたちが未知のものを発見する喜びであるとか、何かをやってみようとかつくってみようという楽しみへとつながって、それは子どもたちが成長、発達の根幹を成すものではないかというふうに私たちは考えて活動しています。

さらに私たちは、大人も子どもとともに学び合う関係でいたいと考えています。今日も青年ブロックの若い大学生も来てもらいましたが、芸術のもとでは経験とか知識の差はなくて対等であるというふうに、私たちは日々の体験の中で実感しています。子どもを中心に集う広場というのが子ども劇場というふうに意味づけられているのですが、この子ども劇場がそういう意味でということ命名した先人の思いを大切にしたいというふうに思っています。

舞台の中では目の前で繰り広げられているものを鑑賞して、子どもたちの心の中というのはわくわくしたりどきどきしたり、時には悲しんだり、怖いとか、怒りとか、さまざまな心の中にドラマが起こります。この心の中にドラマが起きる体験こそ心を大きく動かして、それからいろんな価値観と出会って、それがさらには何か行動を起こすときの原動力になるのではないかというふうに私たちは考えています。これこそ求められているコミュニケーション能力を育むということにつながるのではないのでしょうか。

こんな思いとともに、私たちは子どもを大切にする集団がいる地域は本当の意味で豊かな地域なのではないかということを感じて活動していますので、ぜひ今日私たちの多彩な活動というのを少しでも知っていただければというふうに思っています。活動に関しては

それぞれで回していきますので、どうぞ聞いてください。

- （常任理事） それでは、私のほうから、私たちが大切にしている活動ということで、まずBKGの説明をしたいと思います。BKGは聞きなれない言葉なのですが、子どもたちと青年がつけた名前です。子ども活動の略で、Best of Kid's Group（ベストオブキッズグループ）という名前をつけて、その頭文字をとってBKGとしています。

中学生をリーダーとして、小学3年生以上の子どもたちが主体となって、高校生と青年と一緒に異年齢の集団でさまざまな活動を行っています。また、市内を三つの校区に分けて、校区の境を越えて活動を展開しています。今期は12月に集団遊び、2月に運動会と豆まきや紙飛行機づくり、3月、今週になりますけども26日に天拝歴史自然公園でお花見を計画しています。ちょっと今年は寒かったのか、まだ咲いていないので残念なのですが、子どもたちも花見をよそにすごく体を動かして遊んでくれると思います。

子どもたちと、あと青年と親がともに作り合うということは大変なことがたくさんあるのですが、お互いに気づき合うことも多くて、子ども劇場が設立当初から青年とともに作り上げてきたということを考えると、親だけではなく、青年たちがいるというのは、子ども劇場の大きな特徴の一つであると思います。今前のほうに写真が出ているのですが、これはキャンプの写真になっていますので、今日は来ている青年から話をしてみようと思います。

- （常任理事） 子どもキャンプについて説明します。まず、青年ブロックというのがあって、青年ブロックは高校生以上で構成されています。子どもたちの自主活動において、高校生以上が指導員と呼ばれ、子どもたちの活動を見守る立場にいます。年間を通して行う、さっきの説明のBKG活動の集大成として夏に子どもキャンプをして、今年は子どもキャンプが50回目を迎えます。小4から中3の子どもたちと指導員の仲を深めるために集まりを持ち、みんなでキャンプのスケジュールを立てたり、献立を考えたりと自分たちで考えるということを大切にしています。グループの連絡網も電話で子どもたち自身が内容を回すという体験があって、それも現在では貴重な体験だと感じています。

また、指導員自身も自然講座や安全講座などを受け、子どもたちの命と向き合うことの重要さを感じ、指導員としてどう子どもをサポートしていくかなど、会議を重ねることで自分たちの学びにもつながっていると思います。実際のキャンプでは、普通のキャンプのイメージにとらわれず、さまざまな活動やバラエティに富んだ食事の献立にチャレンジしています。例えば、ハンモックづくりやドラム缶風呂をしたり、かまどでピザを焼いたり、

鳥の丸煮をつくったり、竹でそうめん流しをしたりもしました。

写真では、右のようにかまどでずっと御飯を炊いていたり、真ん中のように秘密基地づくりをしたりしています。自然の中で星空を見つめ、キャンプファイヤーを囲んで楽しく歌ったり踊ったりする体験は、子どもたちだけでなく私たち青年にとっても忘れない体験となっています。

- （常任理事） 次に、子ども市という活動について説明させていただきます。子ども市とは、店を出す仲間と協力し、自分たちで作り上げていく子どもたちの主体性を大切にされた活動です。第27回目となる今年も、4月2日の本番に向けて12名の子ども実行委員を中心に九つの店が出店します。現在、お店ごとに子どもたちは準備を進めているところです。毎年、子供たちの手づくりの品やゲームのお店など、バラエティに富んでいて、子ども市会議ではお店の様子を交流したり、自分たちでルールを決めたりもしています。今年も学校でもお知らせをしたいと、校長先生に相談に行ったりする子どもたちもいました。主体的にかかると子どもたちは大きな力を発揮することができるのだと実感しました。

また、当日の売り上げの一部を毎年チャリティとして、社会福祉協議会へ寄附しています。このことで、子どもたちは自分たちが社会の一員であると感じることへもつながっています。私たちも大人実行委員として子ども市にかかわる大人の集団をつくっています。子どもの自治力を信じ見守る大人の集団とはどういうものなのか、かかわる中で葛藤しながら、大人自身も子どもたちから学ぶことが多いと感じる活動でもあると思います。

4月2日カミーリヤで開催される子ども市ですが、オープニングも自分たちで進行し、盛り上げてくれることと思います。ぜひ、藤田市長にも4月2日の当日、子どもたちのキラキラした思いを、いっぱい詰まった子ども市になっていますので、ぜひぜひお越しいただければと思っています。よろしくお願いします。

- （常任理事） 続きまして、私からはわくわくステージについてお話させていただきたいと思っています。芸術体験は呼吸と同じようだと考え、日ごろは生の舞台を鑑賞している私たちにとって、自己表現の場としての大切な活動です。仲間と一つの舞台をつくり上げる体験は、誰かと必ずコミュニケーションを取らなければならない、いろいろな価値観にぶつかりながら、コミュニケーション能力を育むことができ、これは生きる力になると実感しています。この活動を通して、大人も子どもも表現する楽しさを体験し、地域ごとの取り組みでもあるので、それぞれの地域の豊かな仲間づくりにもつながっています。

私がいま東・山口ブロックでは演劇表現をしています。異年齢の子どもたちでの劇づ

くりなどですが、小学5、6年生の子どもたちを中心に進めているので、子どもたちにもつながりができていると感じています。この積み重ねの体験から、本年度のわくわくステージでは子どもたちがオリジナルの作品づくりに挑戦しました。脚本、背景、小道具、配役など、なかなかスムーズにいかないことも多いのですが、子どもたちの柔軟な発想と当日の堂々とした様子にはいつも驚かされています。

この演劇体験、しかも自分たちでつくり上げるということは、貴重な体験ではないかと思えます。大人側から役を決められるのではなく、子どもたちが話し合って役を決めるという中には、一つの役に希望が集中したり、やりたくないと言い出す子も必ずいます。そんなときどうすればいいのか、知恵を絞りコミュニケーションをとるというプロセスこそ大切なのではと思うのです。セリフを言うのもままならない小さい子たちを、上の子たちが一緒に舞台に上がり、手助けをしている姿を見ると、子どもたちの成長を感じることもできます。

また、大人にとって子どもたちの「やりたい」をどうサポートするかはいつも悩みの種です。子どもたちがやるからには本番を成功させてあげたいという親心と、失敗したっていいじゃない、それも経験だからという思いが交差することもたくさんありますが、子どもたちのわくわくする気持ちと同様に、親自身もまずは一緒に楽しむことと思っています。

この写真は、一番こちら側が一昨年になりますが、東・山口ブロックで取り組んだ「ほげちゃん」という絵本を題材にしたもので、今お話しましたオリジナルのが一番向こうの、あれは船なんですけども、子どもたちが船に乗っているシーンです。真ん中は、お父さんの会の影絵です。私からは以上です。

○（常任理事） 私のほうからは、地域での活動の報告をさせていただきます。子ども劇場では、小学校区を拠点にしたブロックというものを組織しています。地域ブロックで、子どものことを考え合い、ハロウィンやクリスマス会など、季節の活動を企画し、親子で楽しむ場をつくっています。写真は、左手からハロウィンの様子、真ん中が秘密基地づくり、一番右がボランティアバンクの方に御協力いただいて、竹馬づくりをしている様子になります。

子どもたちにとっては、学校のつながりだけではなく、異年齢の子たちのかかわりや地域の大人に見守られているという実感を持つことは、子ども時代を豊かに過ごすためにも必要なことだと思います。また、つながりにくい現代社会の中で、一緒に子育てする仲間が地域にいることは大きな安心へとつながると思います。私たちは、子ども劇場の活動で

この一緒に子育てをする仲間を広げる活動をしていて、それが地域をつくることなんだと思っています。

- （常任理事） 乳幼児親子活動についてお話しします。0歳から3歳の子供を持つ親子のための活動を行っています。定期的に行っているのが「ちびすけ」、地域の乳幼児親子の居場所づくりを目指して、昨年10月から月に1回、二日市東コミセンで遊び場を始めました。自然や季節を感じることができるようなふれあい遊びや手遊びなど、わらべうたで遊んで、おしゃべりをして、温かな雰囲気の中でゆったりとした時間が流れています。わらべうたには、日本の季節感や子どもを大切に育てていくという子どもへの大きな期待感などが詰まっていて、愛情を形にあらわすのにちょうどよく、これからもずっと歌い続けていきたい、大切にしていきたい文化です。

また、不定期で乳幼児を持つお母さんたちが、自分たちで企画して集まっているのが「げんきっず」活動です。こちらは、もう15年以上前から続いている活動で、芋掘りや水遊び、公園遊びやクリスマス会、また親子で楽しめるピアノコンサートやお店屋さんごっこなど、季節の楽しみがいっぱいです。乳幼児を持つお母さんたちがつながって、おしゃべりの中で子育ての不安や悩みも、それから幼稚園や地域の情報交換もして、みんなで分かち合える場になっています。子どもたちは一緒にお弁当を食べて、外遊びをして、充実した時間をお母さんと一緒に過ごしています。

乳幼児親子さんの活動を支えているのが、先ほどから何回か出てきているパートナーという存在です。先輩お母さんたちが、乳幼児期に大切にしたいことなどを講座で学習と実践を重ねて、親子に寄り添う存在としてわらべうた遊びやお母さんたちが学習のときには子どもたちを託児したり、親子活動があるときには手伝いに行ったり、みんなを支えて相談に乗ったりと大活躍をしています。

- （常任理事） 私たち子ども劇場は、毎年秋に開催されている生涯学習フェスティバルとちくしの人形劇まつりに参加しておりまして、実行委員としてのかかわりや当日スタッフとしてなど、多くの会員が協力して参加しております。生涯学習フェスティバルのほうでは、リサイクルバザーをはじめ、人気のだご汁や肉まん、だご汁は市長も召し上がったことがおありですね。大人気ですので。それを毎年楽しみに来られている方との交流もあり、フェスティバルを一緒に盛り上げているとうれしく思っております。

また、人形劇まつりにおいても、日ごろから舞台公演を主催している私たちにとって、当日はプロ劇団の公演のサポートは最も力の発揮できる場だと考えております。県外から

来た劇団の迎え入れはもちろん、来てくれた親子が気持ちよく楽しめる空間づくりにも工夫することで、当日の空間がより豊かなものになっていると思っております。今後も、私たちのできることで協力し、実践していきたいと考えております。

○（常任理事） 私からは、文化発信の拠点としてというところで、子どものための地域舞台公演、通称私たちの中では「こぶた」というふうに愛称で呼んでおります。これは、子どもたちが生の舞台芸術に触れる機会が少なくなってきた今、一人でも多くの親子の方々に生の舞台に触れてほしいという思いで取り組んでいます。身近な公民館やコミュニティセンターを会場にして、会員が力を合わせてチラシやチケットづくりからはもちろん、地域へのお知らせや当日はまたスタッフとしてかかわって、来てくれた親子の方々が心から楽しめるような工夫をしたりしています。会員にとっては日ごろから生の舞台芸術に触れ、親子で見て感じることの大切さを実感しているので、この活動がたくさんの方々に広がったり、子ども時代に心を動かされるような芸術体験の場を大切にしていきたいと思っています。

今年は、6月11日に筑紫野市文化会館のほうで、福岡県のプロの劇団さんをお招きして舞台公演を企画しておりますので、ぜひ藤田市長も来ていただいて、一緒に楽しめたらと思っています。ぜひ、会員外の地域の親子の方々と一緒に楽しみたいと思っています。

写真のほうは、右側は一昨年山口コミュニティセンターで行った遠方の劇団さんと呼んで「泣き虫ももたろう」という舞台をしたときの写真です。右から2番目は、子どもたちが受付をしてチケットのもぎりをしていただいたりしております。左と左から2番目の写真は今年の筑紫公民館での会場での写真となっております。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。せっかくなので。

○（常任理事） 5月が定期鑑賞がありますので、紹介をさせていただきます。乳低の合同で「ねずみくんのチョッキ」の人形劇があります。子どもたちがよく知っている、ねずみさんのチョッキがどんどんどんどん伸びていく楽しいお話なので、子どもたちもきっと楽しみにしていると思います。高学年のほうは、これはオペラなんですけれども、子ども劇場でも、私が入ってからオペラはまだ見たことがない作品なので、「銀のロバ」というオペラシアターこんにゃく座さんの分が5月の定期鑑賞会になっています。市長さんかどうか、よろしかったらお越しく下さい。以上です。

○（事務局） どうもありがとうございました。聞いていて、大人も子どもも人間として豊

かに育ち合うとか、大人も子どももともに学び合うとか、子どもに焦点をあてがちなところを、大人あるいは親も一緒にというような、そういう話がひしひしと伝わってくる内容ではなかったかなというふうに思っています。

ちょっともう少し掘り下げて、私のほうから幾つか聞かせていただきたいと思うのですが、子ども劇場の組織、あるいは体制、聞くところによりますと大体430人ほど会員さんがおられるとお伺いをしています。小さな個別のサークルがあって、それが固まった地域別のブロックがあって、そして全体が子ども劇場だと。どのくらいのサークルがあって、地域別のグループがどういうふうにして分かれているというのを、聞かせていただければと思います。

○（常任理事） 劇場は3名以上で1サークルという規定がありまして、今現在は60サークルほどあります。その60サークルがさらに地域別に5ブロックと青年ブロックで6ブロックあるのですけれども、その地域は中学校区っていいですかね、筑紫と原田と北と二日市、東・山口と5ブロックと青年ブロックで6ブロックに分かれて活動しています。

○（事務局） 430人の会員さんというのは、今まで推移としてどうなのか、増えているのか、減っているのか、その辺、会員さんの数は。

○（黒石事務局長） 子ども劇場という組織は全国にありまして、福岡県内でも19子ども劇場があるのですが、私たちのちくしの子ども劇場は430名ということで、10年ほど会員数は、もう横ばいというか、減っていないのですね。全国的にいうと100から200の劇場というのが大体普通なのですが、そう考えると私たちは一つの一市の中であるとすれば、割と大きい方の子ども劇場というふうに、全国の中では捉えられています。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、もう一つ、予算、NPOとして活動されていますけれども、大体総額、全体の予算がどのくらいで、その収入源あるいは活動費、こういうものにこれくらいのお金を使っているというのを、簡単に結構ですけれども。

○（黒石事務局長） 予算規模としては大体600万円から700万円ぐらいで年間立てております。その収入源は会費収入がほとんどで、1歳から会費を、1歳からが月1000円、それから4歳以上が月1300円、大人も子どもも皆同額で、大人も子どもも対等であるという考えから子どもは無料というふうにはせずに、子どもたちの文化権を保障するというので、会費の中でその活動をまかなっているというところです。

その支出のほうで、4割から5割を占めているのが、この鑑賞活動の部分で、先ほども申しましたとおり、11から12作品ほど年間に企画しているのですが、小さいものと乳

幼児の親子向けにワンステージというのが、30人、40人ぐらいです。ものから、800の文化会館のホールで行うような作品まで、全国から団体呼んでおりますので、その経費負担であるとか、団体の宿泊費、交通費、全部自分たちの会費の中でまかなっておりますので、その支出の多くを鑑賞活動に費やしているというところです。

○（事務局） 正規会員じゃなくて、会員じゃない人もそれには参加を呼びかけているのですか。

○（黒石事務局長） そうですね、会員が基本的に優先ではあるのですが、キャパ的に余裕があるとか、それからもっと広い方に見ていただきたいということは、一般参加で募ったりすることもあります。

○（事務局） 組織的にも大きな組織で、予算的にも結構大きな費用で活動されているんだなと思いました。その柱の一つとして、やはり鑑賞活動、これは年に何回くらい開催をされているのでしょうか。

○（黒石事務局長） 乳幼児部、低学年部、高学年部という組織形態の中で、それぞれの組織のところで年間5本、乳幼児の親子さんであれば5回の観賞会、それから低学年部、4歳から小学校3年生までの親子さんたちが年間5本とか、そういうふうに分けて全体ではもう10、合同である場合もあるので11作品とか12作品ぐらいが年間開催されます。パンフレットの中に作品が、いろいろなジャンルを子どもたちに体験してほしいということで、人形劇、舞台劇、それから音楽のジャンル、あとパフォーマンスとか、そういう芸能のジャンル、さまざまな舞台体験を鑑賞しています。

○（事務局） そういう活動をする中で、これはやってよかったという思いもありましょうし、あるいは今後こういうことを改善していかないといけないなとかということがあれば、聞かせていただければと思います。

○（黒石事務局長） 多分よかったという体験は今、みんなが言ってもらって、活動の中で日々喜びを体験したり、我が子の子育てだけではなくて、地域の子どもたちも一緒に育ちあうということは、もう皆さん、地域の活動でしているのです、その辺は思っていると思うのですが、課題としましては、私たちはやはり会員制で、自分たちでやっておりますので、自分たちがお知らせをしているというところで、やっぱりその辺で広がりがなかなか厳しいなというのを日々感じているところです。会員数を落としていないというだけでも、私たちにとってはあれなのかなと思いますけど、日々やっぱり新しい方たちに体験してもらいたいということで、今日のような機会を持っていただいたり、それから筑紫野市の場合

は教育委員会の後援とかをいただいていますので、小学校とかに公演のチラシを、全生徒に配らせていただいております。

○（萩尾代表理事）　ちびすけが今年度からまた月1回始めるようにしましたので、この間から戦略企画課のほうから連絡いただいて、市のホームページの子育てネットのほうから、今度はそのちびすけのこういった活動というのに飛ぶように今度していただいたので、そこは本当に助かっているところです。あとは、もともとホームページの中に子どものそういうところから、うちのホームページのほうにリンクしてもらおうようにしていただいていたので、そこも本当に助かっているところです。ありがとうございます。

○（事務局）　ありがとうございます。私からは以上ですけど、何か御質問等がございますでしょうか。

では、先に進めさせていただきます。質疑・要望・意見交換に進めさせていただきます。事前に2点お尋ねをいただいています。まず一つ目、コミュニティセンターの会場予約についての御質問があっていたと思いますけども、それについてよろしくお願ひします。

○（黒木事務局次長）　済みません、要望1のほうですけれども、先ほども何度か御説明させていただいています鑑賞活動においてなんですけれども、子どもの年齢に合わせて私たち年間5本ほど作品を見ているのですけれども、この作品は、それを見る1年半から2年前にこの作品の企画検討を行っているのです。企画検討を行った作品におきましては、総会での作品決定後に私たち創造団体とっているのですけれども、プロの劇団さんとの日程調整を全国規模で行っております。これ、なぜ全国規模で行っているかといいますと、単独での公演実施は交通費や宿泊費などの経費負担が大きいために、近隣の子ども劇場、私たち近隣といいますと筑紫朝倉連絡会という5劇場一緒に近隣でやっているのですけれども、ちくしの子ども劇場、太宰府子ども劇場、春日大野城子ども劇場、甘木朝倉子ども劇場、那珂川子ども劇場の五つを筑紫朝倉連絡会と言っておるのですけれども、その5劇場と一緒にとか、九州沖縄の子ども劇場と協力して、この鑑賞例会の作品のコースツアー日程を組んでおります。

決まった日程で会場を予約することに今大変苦労しているところがございまして、筑紫野市で言いますと大きい所のホールでは800のキャパがあります文化会館の大ホールですとか、生涯学習センターの300のキャパがありますさんあいホールなどは、1年前からの予約ができるのですけれども、特にコミュニティセンターの予約につきましては、今のところ1カ月前の予約のために、会員さんへの周知もなかなかできづらく、使用を控

えている状態しております。これが、少なくとも半年前に予約ができればすごく助かるなどという希望が今のところがございます。

○（事務局） ありがとうございます。回答をお願いします。

○（檜木健康福祉部長） 健康福祉部長の檜木と申します。私からお話をさせていただきます。先ほど来、たくさんの鑑賞活動を積極的になさっておいりましたので、会場確保するのが大変だろうなというふうにして聞いておったところです。

それで、コミュニティセンターの早期の予約ということにして、ぜひとも団体登録を行っていただきたいということでございます。団体登録をしていただきますと、1年間の年間スケジュールを予約可能となります年間使用申請の手続をすることが可能でございます。

ちょっと調べて見ましたら、ちくしの子ども劇場さんは二日市東コミュニティセンターに団体登録をなさっているようでして、それに基づきまして年間使用申請を出していただいておりますということですので、それと同じようにほかのコミュニティセンターもございますので、それぞれに団体登録をしていただきますと、二日市東と同じように年間使用申請、将来1年間の申請ができますので、ぜひともそちらのほうを御利用いただきたいというふうに考えているところですが、それでよろございますでしょうか。二日市東はなさっておりますよね。

○（萩尾代表理事） そうですね、今年は。

○（檜木健康福祉部長） その前は山口で確か。

○（萩尾代表理事） 山口でしたりとか、二日市コミセンとかはしています。

○（檜木健康福祉部長） それを例えば1カ所じゃなくて、何カ所も例えばブロックのような感じでしていただくと、その分またそこで先の1年間予約できますので。調整会議というのがございますけども、その中で押さえることが可能です。

○（萩尾代表理事） コミセン登録が結局、1カ所したら全コミセンがもう半額減免ということが今までがよかったので、1カ所登録でして、コミセンが同じ共通という形で劇場として使っていたのですね。なので、お話だと年間使用申請を出すということになると、コミセンごとにやっぱり出していった方がいいのかなと今、理解しています。

○（檜木健康福祉部長） すみません、まさにそのとおりでして、それをさせていただきますと1カ月ではなくて1年間できますので。

○（萩尾代表理事） 定期とかではないけど、単発でもいいから、鑑賞のときにはその日にちはとれるということですね。

○（**檜木健康福祉部長**）　そうですね。調整会議が毎年1月にあっているようですので、それに出していただく。そこら辺は御存じだと思いますので、ぜひともお願いいたします。

○（**事務局**）　ありがとうございました。そうしたら2点目の地域舞台公演について、よろしくをお願いします。

○（**黒木事務局次長**）　続きまして要望2のほうですけれども、さっきもパワーポイントで説明があった分なのですが、私たちは会員で鑑賞するだけではなく、年に1度地域の子どもたちや親子さんに向けて、子どものための地域舞台公演、通称「こぶた」といっておりますが、これを事業として実施しております。今年も6月に文化会館の多目的ホールで開催する予定をしております。

このこぶたの事業費も会の自己負担でありまして、会員の会費で賄っている現状であります。参加費を安くすることで、地域の子どもたちに生の舞台芸術に触れる機会を増やすことができるのではと考えております。今後、地域のコミュニティセンターなどとの共催も含め、会場に負担や一部補助などの検討をしていただければ実施会場を増やすことや、参加費の軽減も可能になると考えております。

ちなみに、今年の親子券が1500円でしたかね。まだちょっと決まってはおりませんが、親子チケットで1500円くらいで、地域の子たちや親御さんにも来てもらい、こぶたをやるのかなと考えています。

○（**萩尾代表理事**）　企業のほうに回らせてもらって、それを込みで一応予算を立てたという形ですね。なので、そのチケット代はそのくらいでできるかなと。

○（**黒石事務局長**）　完全に参加費だけだと、やっぱり1人当たりの負担というのは結構かかるのですよね。だから、そこら辺は私たちも努力をして少しでも参加しやすいような値段に、とは思っているのですが、やはりそれでも高いなと思われる方もいらっしゃるのでは、その辺の何か知恵がないかなというのはいつも思っているところです。

○（**藤田市長**）　そうですね。予算になりますと、私の出番になるのだけど。活動内容を全部聞くとすばらしい活動してあるのですよね。ですから、やっぱり会場のセッティングが難しいと、それとやっぱり会場費と補助金が欲しいというところの御意見だろうと思っておりますが、それはちょっと予算が伴うことですので、ここで簡単に答えが出ないのですが、持ち帰りまして、これは先長い、末永い活動になると思うのです。歴史もたくさん持っていらっしゃいますので、その歩みもまた聞かせていただきながら、予算の中に取り込むことができることは取り込んでいきたいと思っております。即答ができなくて申しわ

けございません。

- （事務局） 事前にいただいていたものがその２点でございました。どうもありがとうございました。ほかに何か聞いておきたいことがあればお聞きします。個別に何かあったらいつでも相談していただければと思います。それでは、意見交換についてはこの辺で切り上げさせていただきたいと思います。

それでは、施策概要の説明、前のパワーポイントのほうで末吉が説明しますので、よろしくをお願いします。

- （事務局） では、施策概要ということで、前のほうのスライドを使ってお話をさせていただきます。今３月ですけれども、実は３月の議会というのが明日まで行われます。その３月の議会で、来年度平成２９年度予算というのを御審議いただいておりますので、今、予算の案という形で書かせていただいております。明日の議会が終わったところで案が取れまして、こうやって２９年度筑紫野市が動いていきますよということを御紹介させていただきます。

２９年度予算の歳出の案ですけれども、歳出予算の中で一番大きな割合を占めていますのが民生費です。子どもや高齢者、障害者などの福祉に使われるものです。予算の４２．５％を占め、その額は約１３２億６３００万円です。

次は、総務費、行政の運営や戸籍、税金の徴収などに使われます。予算額は約４２億６１００万円、全体の１３．６％を占めています。

次は、土木費、道路や公園などの補修や建設に使われます。予算額は約２９億８５００万円、全体の９．６％を占めています。

次は、衛生費、健康診断や予防接種、ごみ処理などに使われます。予算額は約２９億４２００万円、全体の９．４％を占めています。

次は、公債費、市の借金を返済するもので、予算額は約２８億５３００万円、全体の９．１％を占めています。

次は、教育費、教育や文化、スポーツなどに使われます。予算額は約２５億８３００万円、全体の８．３％を占めています。

最後に、その他は議会や農業、商工業、消防などに使われる予算で、約２３億２７００万円、全体の７．５％を占めています。

以上が、平成２９年度の一般会計予算の案でございました。これらの総額３１２億１４００万円によって、１０万３千人余の市民の皆さん方の生活を守っていくということ

になります。

続いて、筑紫野市がこれから進んでいこうとする基本的な考えについて、少し御紹介をさせていただきます。

昨年4月、筑紫野市の基本的な憲法のようなものになります第5次筑紫野市総合計画というものをスタートしております。藤田市長の就任以来の公約である行財政改革、産業・雇用をつくる、生活をまもる、共助社会づくり、未来をつくる、この五つを政策の柱とし施策に取り組んでおります。

さらに今後、特に重要になる取り組みという形で五つ重点施策を設定しております。前のスライドにありますような事業を、積極的に推進していこうということで取り組みを進めております。

その中の一つ、市庁舎の建設でございますが、我が市の長年の懸案事項でありまして、将来に向けた重要な取り組みの一つであると考えております。昨年、9月議会におきまして設計・施工を一括契約の締結について議決をいただきまして、大きな一歩を踏み出したところです。このたび、外観イメージや配置計画などをまとめた基本設計を作成しましたので、その概要をホームページにおいてお知らせしています。そのホームページでお知らせしているイメージ図、それを前に載せています。

手前側が二日市東コミセンです。県道側から見たイメージという形で、こういうふうな形を想定しているような形になります。今後は、より詳細な設計を行った後。

- （萩尾代表理事） どれが庁舎ですかね。左のちょっと奥の。
- （事務局） そうですね。色が黒っぽくなっている形ですね。
- （萩尾代表理事） 東コミセンの奥はなんですか。白っぽいやつ。
- （藤田市長） 東コミセンの奥は立体駐車場です。4階になります。その左側、左側が庁舎ですけど、6階建ての庁舎です。1万4000平米ぐらいありますね。そういうふうな形ですけど、ちょっとこのパーツではわかりにくいですが、大体30年の11月、再来年には完成します。もっと言えば、7月からもう取りかかります。
- （事務局） すみません。補足いただいてありがとうございます。
- （藤田市長） どこか何か御質問があったらおっしゃってください。
- （常任理事） それじゃ、立駐と市庁舎の間にあるあの四角い何か低いのは、あれは。
- （藤田市長） 駐車場と庁舎の間ですか。あそこが要するに1階の部分なのですが、あそこはもう1階でずっとつながっているのですよね。そこが、非常にワンストップサービス、

1階においでになったら、いろんな事務ができるようなスペースをとっているのです。あれは2階建てです。2階につながっているのですが、2階までしかないのですよね、あのちっちゃいのが。それで、2階はなにかというと、今470名の職員がおりますが、仕事始めとか仕事納めとか、一堂に会してのそういうものを協議をする、会議をするところがないのですね。要するに学校で言ったら体育館のようなものですね。そういうようなのをつくっているのが、あの2階です。だから、今から先は集まれと言ったら470人全部集まって、そして市長の訓示ができると。子ども劇場をそこでやりますか。そういう建物です。1階には、そういうふうにワンストップサービスもですけど、売店とか、それからちょっとした展示をして見てもらうギャラリーとか、そんなのがあそこの1階にできると思ったらいいです。

はい、どうぞ。

○（常任理事） 防災的な部分ってどうですか。

○（藤田市長） 防災。

○（常任理事） 例えば、何かがあったときにあそこにテントがあり、簡易トイレがあるとか、そういうふうなのというのは。

○（藤田市長） おわかりでしょうか、こっちが県道のほうですね。そして庁舎に行く間、コミュニティとの間ですね、駐車場に行く間、あそこは全部広場です。具体的に言ったら、今、筑紫野市の市庁舎を見られたことがありますか。市庁舎の前の空きスペースがあるでしょう。それから、県道があって、向こうの駐車場があります。あれの1.5倍ぐらいの広さです。それだけ広さをとっています。避難所、避難するところ、いろいろ、そうですね、何かイベントをするときの広場ですね。そういうふうになっています。

いいですか。ありがとうございました。

○（事務局） では、もうちょっと続きますので、おつき合いをいただきたいと思います。

続きまして、先ほど五つの政策というふうに申し上げましたが、その中の政策5というのが未来をつくるという政策です。その中から、皆さん方の活動に関連するようなものを少し紹介させていただきます。

この未来をつくるの中においては、健やかに育つまちに向け、歴史文化の継承と信仰という事業であったり、子育て支援の推進、そういった施策を進めているところです。

前に出ておりますのが、先ほどからお話が出ております子ども劇場さんの補助金の事業ですね。予算額が10万円です。

これもお話の中に出てきました人形劇のあるまち推進事業という事業の名称になるのですが、ちくしの人形劇まつりの実行委員会に対する補助金です。予算額が80万円です。子ども劇場の皆さん方をはじめ、実行委員会の皆さんの御協力によりまして、人形劇まつりも14回回数を重ねさせていただいております。地域に根ざした事業として数多くの市民の皆さんに親しんでいただいているまつりとなっているところです。今後とも末永くよろしくお願ひしたいなと思っているところです。

続いて、今度は子育て支援という観点のほうから幾つか御紹介をします。地域子育て支援センター事業、予算額が1282万8000円です。子育ての方法を知らせたり、子育て仲間をつくるきっかけづくりとなるよう親子教室やサロンなどを市のほうでも開催をしております。育児情報の提供や保育相談などを行ったりすることもできます。

続きまして、乳幼児家庭育児支援事業、予算額が630万9000円です。乳児のいる全家庭に対し、家庭訪問を行っています。29年度より新たに産前産後のサポートを必要とする家庭に対して、赤ちゃんホームヘルパー派遣事業に取り組んでいく予定になっております。

次に、利用者支援事業、予算額が293万4000円です。子育て中の親子の方であったり、妊娠をされている方などが、地域のさまざまな子育て支援情報などを円滑に利用できるように、情報提供、相談、助言などの支援を行う事業に新しく取り組んでまいります。

次に、生徒指導総合推進事業、予算額が2045万9000円です。いじめや不登校の対策のために、相談員などをいろいろ設けているところですが、引き続き不登校児童生徒対策やいじめの防止に取り組んでいくために、相談員の配置を行ってまいります。

事業の紹介としては最後になりますが、先ほど地域の取り組みの中でお話もいただきましたコミュニティスクール推進事業、予算額が320万円です。地域・家庭・学校の連携による学校運営を進めるコミュニティスクールの活動を推進するための事業費になります。平成29年度には全小中学校で実施される予定となっております。

以上、簡単な説明でしたが、このような事業を通して、子どもたちの健やかな育ちのための取り組みを市としても進めているところです。皆さんのこれからの御協力、御理解をよろしくお願ひ申し上げまして、以上で終わらせていただきます。

○（藤田市長） 今話したのは、全部新年度予算ですね。312億1400万円の中に全部入っています。先ほど、皆さんがおっしゃった子ども劇場関連の中で、今、コミュニティが7館ありますけど、その7館の会場がとれないかというか、そういった会場あたりの会

場費の減免、あるいは補助金をほしいというようなお話がありましたよね。それが一番、今日は大事なところだろうと思いますけども、いろんなことをやって、もう予算を立てているのです。ですから、私がさっき言ったのはしばらく勉強させてくださいと。これから、どこに組み込めるか。

○（萩尾代表理事） 予算も始まりますもんね。

○（藤田市長） そうなんです。予算はもう、明日の議会で決まったらそれで動かないのですよ。だから、こういうふうな皆さんとの移動市長室をしながら、なるほどよくみんな頑張ってくれているんだと。それじゃねってということで、ずっと検討を加えていって、これプラスしよう、マイナスしよう、いろいろ1年間予算組んでいく間で、でこぼこがある。今度、皆さんと会ったときになっこり笑って、やっぱり市長に言っておってよかったねってというような結果につながればいいと思います。

○（萩尾代表理事） ありがとうございます。

○（藤田市長） 手をたたかないように。まだ決まっていませんからね。やっぱりそういう意味からでも、こういう会合でお話聞かせてもらうというのは非常にやっぱり有意義なのです。なさっていることはものすごく素晴らしいことをなさっているのですよ。子どもは宝というけど、実際にこういう活動の中で子どもを育てていただいている、この子ども劇場の活動というのは、これは学校でできることじゃないです。それは、教育現場でできることじゃないことを皆さん方は情操教育から全部していただいているということになると、その辺は重んじた予算づくりの中で、恐らく宗貞部長を知った人がたくさんおりますから、宗貞部長が今度言うと思いますよ。

冗談交じりのことを言いましたが、非常に今日の最後の言葉になってしまいそうですが、皆さんの活動にびっくりしました。そして、明るい、皆さん方。やっぱり明るく、楽しくやらないと子どもも育ちませんもんね。やっている人がしょぼんとしていたらね、子どもは育たないでしょう。明るい子どもを、たくましい子どもを育てていくための原動力は皆さん方のその明るさにあると思いますね。

黒石事務局長なんかもう明るさの典型的な人ですね。一緒に劇をされた方でしょう。そうでしょう。こちらがお母さんでね。あなたがお姉さんということはわかりますよ。

○（黒石事務局長） またしたいですね。

○（藤田市長） そうね。あれはちょっと今度考えてみたら、また、市民劇を。

○（黒石事務局長） 文化会館も巻き込んで。

- （藤田市長） 僕はもう吉田松陰、ごめんよ。
- （黒石事務局長） 主役ですから。
- （藤田市長） 本当、皆さん方がこんなに集まられて、それぞれのやっぱり自分のちゃんと立場がありながら、この子ども劇場で子育てを学んだとか、そこでやっぱり救われたとか、そこがもう生きがいのようなことをおっしゃった方がたくさんいらっしゃいます。すごい、やっぱり子ども劇場さんだなど、50年の歴史というのはここにあるのだなど、改めて萩尾代表理事のすごさを感じました。
- （萩尾代表理事） いえいえ、あくまで代表なので、みんながすばらしいので。
- （藤田市長） そうだね。そうでないとやっぱり長く続きませんよね。
- （萩尾代表理事） そうだと思います。組織がやっぱり、何だかんだいってもちゃんとしてきたので、それが一番です。
- （藤田市長） それで、その組織の中に「わ」があるというのがいいですね。まとまった輪、それから、和やかな和。そういうものが現存していることでやっぱり継続しているのだらうと思いますよね。本当に勉強になりました、今日は。
- （萩尾代表理事） 知っていただいて、本当にいい機会になりました。
- （藤田市長） もう終わりの言葉っていう前に。
- （萩尾代表理事） 子どもの育つのは本当早いからですね。
- （藤田市長） そうですね。
- （萩尾代表理事） 本当なんか、自分たちもやっぱり、大きく自分たちも育ってきたから今の人たちにも言えるっていうのもあります。子どもたちに教えてもらって自分たちも本当に成長したと思いました。大体そういうのが劇場のいいところだなど。
- （藤田市長） そうですね。そして、聞かせてもらいながら、全国ネットでしょう。すごいですね。
- （萩尾代表理事） 本当すごいですね。
- （藤田市長） 私、人形劇だけかなと思っていました、全国ネットは。
- （萩尾代表理事） 誕生が福岡なんです。発祥がもう福岡で誕生したのですよね。
- （黒石事務局長） 今年夏ですね、また子ども劇場の全国フォーラムというのが立ち上がって、それこそ全国北海道から沖縄までの子ども劇場がまた集まって、いろんな団体と何か子どもたちの文化芸術で、打ち破ることできないかという会議を、全国フォーラムをまた今年持つようになったのですよ。だから、流れ的にまた全国に広まるという感じですね。

- （萩尾代表理事） それこそ、震災とかもあったからですね。流れてしまったところもあったし、この間、熊本とかも事務所がだめになったとか。
- （藤田市長） 47都道府県で福岡は、子ども劇場とか、人形劇とか、かなり上位。
- （黒石事務局長） 中心部に理事も結構、九州の中でも代表が今福岡から出ているので、かなり中心で頑張っている方も全国に今、一緒に。
- （藤田市長） 青年部、お母さんに負けないよう、がんばって。
- （常任理事） ちょっといいですか。20年入っているのですが、メンバーってずっと入れ替わってきているのですが、何か大きなもめごととかないのですよね。それはみんなが何かあれば芸術とかをやっぱり大事にしながらきて、見続けてきているから、仲間の輪も大事にするし、かといって言いたいことが言えないわけでもなく、いつも温かく受け入れたり、一緒に考えたりというのが自然とつくられてきている団体だなと思うと、こういうの余りないのですよね。不思議だなというふうに思います。
- （萩尾代表理事） そうなんですよ。サークルとか、子育てサークルとかだと、それぞれ代表の人がいなくなったらなくなったりということもありますけど、本当、ここはもう脈々というか、やっぱり精神とか方針を大事にというのが、もともとのベクトルが同じところなので、そこはみんなが同じ思いでつないできたというのが、やっぱり50年続いてきた証なのかなと思います。
- （藤田市長） 塩崎さんが言われたことはみんな思っていることでしょうね。
- （萩尾代表理事） もう長い、この中で一番歴は長いんですよ。本当子どもさんが4人いらっしゃるの、一番小さいときから入って。
- （常任理事） 育ちました。私も、ここで。
- （萩尾代表理事） ですよ。何か心配事も相談したりとか、やっぱり先輩お母さんがいるっていいですね。
- （藤田市長） やっぱりみんな子どもを産み育てるときに、はてなという部分があったのだらうと思うけど、そんなときは仲間というか、先輩たちを含めて同士というか、そういう共有する部分というのが、教えたり教えられたり、そういうのもやっぱりきずなになっていくのでしょうか。
- （萩尾代表理事） なので、本当にもう大きくなったお母さんたちの会もあるんです。
- （黒石事務局長） 60、70で、活発にサポートをしてくださる。
- （萩尾代表理事） やっぱり会員でいてくれるということも、私たちも。

- （藤田市長） それで、ほら、この会が終わっても学校の役員をしますとか言って。
- （萩尾代表理事） そうなんですよ。
- （藤田市長） 今ね、PTAの役員になり手がいないんですよ、本当に。
- （萩尾代表理事） PTA問題も大変ですよ、今は。任意にするとかもう、この間、PTAのお母さんとしゃべっていたら、そんなのがでてきたらどうしようって。
- （黒石事務局長） 皆、本部を経験した人たちがいっぱいいるから。
- （萩尾代表理事） 劇場の活動をしていると、PTA活動なんてへの河童です。
- （黒石事務局長） 大したことないねって、皆がそう。あれ、私だけ。
- （萩尾代表理事） 皆たぶんそんな感じだと思います。
- （藤田市長） 私も、云十年前にPTA会長しましたけど、役員さん決めが大変。そして、これほど、重箱の隅って知ってる。こんなことまでいうのっていうことが多いじゃないですか。しかし、振り返ってみると、もうとっくに子どもは大きくなって、おじさんになっているのに、まだ親はそのPTAの仲間づくりをまだしてますよ。ノミネーション。やっているんですよ。卒業しませんね。そういうふうなおっしゃったこと、何度もおっしゃるけど、これが終わったらPTAの役にもなっているというのは、貴重な存在です。しかし、それをやるとまた自分磨き、また大きくなりますね。そう思いますね。別に、PTA役員を勧誘にきたんじゃないですよ。
- （萩尾代表理事） みんなが、劇場のみんなが受け継いでくれると思っています。
- （藤田市長） そうですね、本当。
- （萩尾代表理事） そうやってやっぱりつないでいくというのが、PTAなんかも、だからやっぱりならないとかじゃなくて、やっぱりお互い様っていつも私たち言っているのですけど、やっぱり自分ができることでいいからということで、何かそういうつながりはやっぱり大事にというのを、PTAとかも、子ども会も今減っていたりするのですけど、そういうのを感じていくようなことがあるといいと思いますね、本当に。
- （藤田市長） 司会者から全然ストップがかからない。
- （事務局） そろそろ時間もまいりました。非常に和やかな雰囲気の中、私もつい時間を忘れて聞き入っておりました。
- （藤田市長） 私の最後の挨拶は。皆さん、ありがとうございました。
- （事務局） それでは、これを持ちまして移動市長室は終了したいと思います。本当に長時間にわたりありがとうございました。